

# ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

## チボリのカレッジ奨学生の感謝の手紙から

— 紙面の関係で抜粋、要約させていただいています —

3月23日の卒業式のあと、1週間ほど家族と過ごした後、4月1日から、予備校での看護師国家試験の準備が始まりました。7月の国家試験が6月2-3日に繰り上げとなり慌てました。ベテラン看護師や医師の指導のもと、一日500の問題を解く等大変ハードでした(中略)いよいよ6月2日緊張の中で試験に臨みました。そして発表の日、パソコン画面に自分の名前を見つけました！(中略)私の名前の最後に、有資格看護師の称号R.N.がついたことをお知らせしたくてペンをとりました。ありがとうございます！7/13あなたの奨学生クリスより  
(元 JOFPA 会員 C.F 様宛)

この前お便りした時から5ヶ月経ちました。4月4日の卒業式のあとは、奨学生になった時の約束どおり、自分の村で教えるため、レイクセブにもどり、SCMSI校の教師に応募し、採用されました。初めての授業は大変でしたが、今は仕事が楽しくなり、教える喜びが分かってきました。(中略)

私に、最後まで勉強するサポートをしてくれたことを心の底から感謝しています。あなたとそのご家族に神の祝福がありますように。いつも祈っています。

8/29 あなたの奨学生ローズより (継続会員 FA 様宛)

## — 52回目のレムルナイ/SCMSI 創立記念祭 —

チボリ民族マホーク首長の支援要請によりレイクセブ町に入ったカトリック修道会が、1961年に設立したSCM。その創立52年目を迎えて、今年も9月12-13の両日、SCMSI キャンパスに集まった生徒と住民が、伝統の馬の闘い、チボリダンス、球技大会等で祝いました。(関連記事P6)。

写真はチボリダンスを披露するレムエヘック小の子どもたち



## チボリ初の医師になります！

— ダバオ医科大学1年アンの手紙より —

医科大学入学当初、すべてが初めての体験で、嬉しさと心配・緊張感、半々の気持ちでした。今はもう時間をうまく使えるようになってハードな勉強にもついていけるようになりました。村の人々に奉仕する医師になれるように、精一杯努力することをHANDSの皆さんに約束します。そして、学費を支援してくださる宮崎様、あなたは、親族でもない私に対して手を差し伸べてくれました。ありがとうございます。あなたのご支援がなければ今、医学生としてここにいませんでした。必ずチボリで最初の医者になります！  
10/11 アン(写真)

## <チボリの医師育成事業>

JOFPA カレッジ奨学金で、国立ミンダナオ大学生物学科で学んだアン。卒業後は、スララの私立高で教えながら公立校教師資格も取得しましたが、医師にという初志貫徹のため、元里親の宮崎氏に相談。個人支援は避けたいという宮崎氏の要請でHANDS 教育事業として実施しています。



## JOFPA 菅沼基金最終支援の使途報告と今後

JOFPA が昨年度末に送金の菅沼基金 10 万円 (42,500 ペリ)は、以下のように、新学期が始まったSCMSI 校の歯科検診、治療に充当されたという報告が届きました。

児童・生徒の歯科検診(麻酔薬ほか)	40,500 ペリ
検診事業管理費	2,000 ペリ



SCMSI による回虫駆除や歯科検診への継続支援要請に対しては、支援の緊急性や、支援する場合の財源について、今後、理事会で検討したいと思います。(写真は町立病院ガロール歯科医のデコロンハイスクール検診風景)